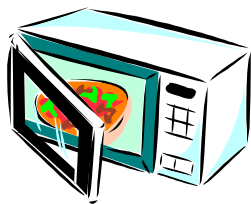
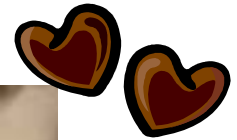


# のびやか



## 37号

### 肢体不自由児棟「なのはな棟」



なのはな棟では、週末を利用して買い物、おやつ作りを行なっています。今日は子ども達と相談して決めた「チョコバナナケーキ」作り！！

レシピをみながら卵を割る人、かき混ぜる人と自然に役割分担が決まります。

みんなトースターの前で焼けるまでじっくり我慢。作るの1時間、食べるの5分……。できあがりには、大満足でした。

・・・シリーズ 「耳鼻咽喉科から」 第1話・・・

### 当センターの耳鼻咽喉科の歩み



青い鳥医療福祉センター 耳鼻咽喉科医長 別府 玲子

今回から、このシリーズは耳鼻咽喉科が担当になりました。耳鼻咽喉科の話というと、みみ・はな・のどのしくみ、機能はこういう具合で、病気としてはどういうものがある、という内容になるかと思いますが、第1回目は、センターで耳鼻咽喉科が開設されてからこれまでの経過を、記憶をたどりながら紹介したいと思います。

さて、耳鼻咽喉科は、平成12年4月より週1回、午後診がはじまりました。そのころ私は、

愛知県総合保健センター聴力音声言語診断部（現在はあいち小児保健医療総合センター耳鼻咽喉科に業務移管されています）でおもに聴

#### 目次：

シリーズ「耳鼻咽喉科から」	1～2
外来診療部コーナー	3
「支援を学ぶ」	4～5
「日中活動の場」紹介	6
入所部門コーナー	6
読書コーナー	6
親の会の紹介	7
掲示板	8

覚障害の方々の診断、(リ)ハビリテーションをおこなっていました。青い鳥からの診療依頼は、もともと私の上司に依頼があったようですが、上司の都合がつかず、青い鳥についての知識はほとんどない状態で、私が診察に伺うことになりました。来てみてから、なぜ耳鼻咽喉科が必要になってきたかについて説明を受けました。それは、入所者で耳鼻咽喉科診療が必要な場合は、愛知県済生会病院耳鼻咽喉科まで足を運んでいるが、耳鼻咽喉科疾患は長期通院が必要な場合があり、頻回の受診は困難であるためというものでした。確かに、一人、二人ならまだしも、数人を頻回に車に乗せて通院することは大変で、しかも一般病院や開業の耳鼻咽喉科は、スペースが狭いところが多く、ストレッチャー、車椅子などでの移動は至難を極めることが予想されました。

かくして、週1回の診察が開始されたのですが、重症児施設での耳鼻咽喉科診察は私自身経験がなく、スタッフも耳鼻咽喉科経験者は1人だけでした。耳や鼻の細かな所見をとったり、のどを観察したり、鼻咽腔ファイバー、喉頭ファイバーを施行したりするには、患者さんをしっかり固定しないと大変危険です。患者さんの動きが激しかったり、診察のための態勢がとり難かったりする場合は、数人のスタッフの介助が必要となり、スタッフ全員が慣れるまでには、かなり時間を要したと記憶しています。

そして、少し診察に慣れてきたかなあと思っていたころ、あの東海豪雨に見舞われ、一夜のうちにセンター1階の診療部門は水浸しになってしまいました。耳鼻咽喉科の診察室も、診察のユニット、診察の椅子が水につかり、診察が不可能になってしまいました。椅子は折りたたみ式パイプ椅子で何とか代用しましたが、診察ユニットは代替品がなく、耳鼻咽喉科器械を専門に扱う業者の厚意で、阪神淡路大震災時に使用された携帯用診察ユニットを借りて、翌年3月まで診察をおこないました。元通りの診察が可能となったのは平成13年の4月のことでし

た。

一般的な耳鼻咽喉科疾患の特徴として、急性疾患は急性期の対応ですむことがほとんどですが、慢性疾患は、長期経過観察が必要な場合が多く、その中で、手術適応となるケースもでてきます。しかし、手術後の治療にたいする協力が望めない可能性がある場合、本来手術適応があるケースでも、手術にもって行くことがなかなか難しく、その場合、いかに慢性疾患をコントロールするかが現在でも課題となっています。そして、診療を重ねるごとに、心身障害のある方を診療する耳鼻咽喉科が携わるべき大きな課題が2つあることが徐々に明確になってきました。

一つは、飲み込みに障害のある方や、もう一つは、呼吸に問題のある方々が予想以上に多く、咽喉頭の診察が必須であることです。咽喉頭の診察は耳鼻咽喉科が専門ですので、その重要性、責任の重さを痛感しています。重症児施設で、耳鼻咽喉科医が常勤でいる施設は全国的にも数は少ないと思われれます。当センター耳鼻咽喉科では、治療器機も拡充してきており、鼻咽腔・喉頭ファイバーも当初2本であったものが、現在では4本となり、電子スコープも入れていただきました。平成18年10月より常勤医として赴任して、重症児の皆さんのお役に少しでもたつことができると考えています。

次回からは、みみ・はな・のどの各部位についてのお話を予定しています。



## お薬の飲みあわせについて ～薬局より～



最近、センター薬局の窓口でも、お薬の飲みあわせについて質問を受けることがあるようになりました。添付文書には必ず相互作用の項目が設けられていて、実際の記載も数多くあります。このようにお薬の飲みあわせが広く一般に認知されたきっかけは「グレープフルーツジュースとある高血圧薬を一緒に飲むと、高血圧薬の作用が増強されてしまう」というものです。これによってお薬の飲みあわせは薬品と薬品だけではなく、食品と薬品でも起こりうるものが広く知られました。

では、センターで処方されているお薬のなかで、代表的な飲みあわせを紹介します。まずは薬品同士の組合せから見ていきましょう。

### 1)もともと類似の作用・副作用のある薬品同士の飲み合わせ

抗てんかん薬同士や抗てんかん薬と鎮静薬、睡眠薬の組合せでは眠気やふらつきが強く現れることがあります。これは、同様の副作用がある薬品同士を飲むわけですから、副作用が増強されてしまうことも感覚的にもわかりやすいと思います。

### 2)代謝経路が同じで作用(副作用)が増強(減弱)されるもの

多くの薬品が肝臓で分解され体外に排出しやすい形にされます、これを代謝といいます。そのため肝臓には大変多くの種類の代謝酵素がありますが、薬品の中には酵素の働きを抑制してしまうものがあります。

タガメットやオメプラールとアレビアチンの組合せの場合、アレビアチンの代謝が阻害されて、血中濃度が上昇してしまうことがありますし、フェノバルとハイセレニン(デパケン)の組合せではフェノバルの血中濃度が上昇することがあります。

また、薬品の中には代謝酵素の働きを上昇させる(酵素誘導)ものがあります。この酵素誘導の例で併用してはいけない組合せがあります(併用禁忌)。バルプロ酸(セレンカR、ハイセレニン、デパケンなど)とカルバペネム系抗生剤の組合せではハイセレニンの血中濃度が下がってしまい、発作をおこしてしまうために、バルプロ酸服用中にカルバペネム系抗生剤を使うことは出来ません。風邪や発熱などで他院受診して抗生剤の点滴になる時はご注意ください。

全ての薬品の飲みあわせを網羅して調べることは、現実的に不可能です。抗てんかん薬同士であれば、センターにて処方される事が多いと思います。同一医療機関で処方される場合は、処方される先生や担当の薬剤師が飲みあわせについて十分検討して投薬されます。

複数医療機関を受診される方は薬の手帳などを活用して、服用している薬があることを医師、薬剤師にお伝えください。

### 3)食品との組合せ

最後に食品との組合せを紹介します。食品との組合せは医療機関では把握できないことが多く、注意が必要です。

テグレトールとグレープフルーツ(ジュース)は併用注意となります。グレープフルーツの成分がテグレトールの代謝酵素を阻害して、血中濃度を上昇させてしまうことがあります。テグレトール服用中の方はグレープフルーツジュースの摂取は控えてください。

また、直接効き目には影響しませんが、クラリスドライシロップをヨーグルトや乳酸菌飲料などの酸性食品と一緒に飲むとかえって苦くなることがあります。

お薬の飲みあわせについてお話してきました。代謝や酵素の話などわかりにくいところもあったと思います。繰返しになりますが、定期的に服用中のお薬がある方は医師、薬剤師にお伝えください。お薬についての質問や疑問がありましたらいつでも遠慮なくお尋ねください。

## ＜第3話 汚れた服のまま —理由があること—＞

Cくんが施設にお母さんとやって来たのはある年の春のことでした。玄関の前のおおきな枝垂桜が咲きはじめていました。知的障害者更生施設には当時150人の人たちがさまざまな事情で家庭や地域から離れて暮らしていました。養護学校を卒業したCくんも、単親のお母さんが働かざるを得ないという事情をかかえていました。それに80kgもある巨体で昼夜を問わず無断外出を頻繁に繰り返していたため、お母さんは疲れきっていたのでした。

Cくんはお母さんと車から降りてきました。たくさんの荷物を車から降ろしているのをCくんはニコニコと見ています。玄関に荷物を置いて、お母さんと私が事務所でしばらく話をしている間に、そばにいる彼は神妙な顔つきになってきました。お母さんも本当に彼を置いて帰れるのだろうか不安になってきたようでした。話が終わって、お母さんが車に乗り込むとCくんも乗ろうとします。それを私が止めます。お母さんが思い切って車を出すとCくんは顔を真っ赤にしてウーッと叫んで車につかみかかります。職員が数人で彼を押しとどめると彼はドカッとその場に座り、車が去った方を見つめています。不安をいっばいにためた目でした。

彼が施設の玄関を再び入ったのは、それから3時間後でした。彼に荷物を渡してから、私はそのまま3時間、ずっと彼のそばにただ座っていました。夕暮れになってさらに不安になったのか、うつむいて私に身体をくっつけてきました。私が立ち上がってゆっくり誘うと荷物をしっかり抱えてついてきたのです。棟のホールに入って長イスに腰掛けても身体を硬くして、差し出された食事にも手をつけようとしませんでした。そして蒲団をしいて促しても寝ようとはせず、明け方まで長イスでウトウトして過ごしていました。彼が自分の部屋に入ったのは、その3日後でした。

彼が入所して職員が一番困ったのは入浴時間でした。ある時から、頑として服を脱ごうとしなくなったからです。その訳を調べてみると、脱いだ服が洗濯のために施設のランドリー部へ渡り、彼の目の前から消えてしまったからだと分かりました。彼は3日3晩、家からもってきた荷物を手放さなかったぐらいですから、そのショックは相当なものだったと



想像できます。当時、彼のことばは四つありました。「ひー（家で飼っているウサギ）」「かーやん（お母さん）」「ぶー（車）」「ぼっぼ（大好きな電車）」です。一つのことばをいろいろな意味で使うので、それで40語ぐらいにはなりました。服のことを「かーやん」と言うのは、「お母さんが直してくれる服」や「お母さんが洗濯機で洗ってくれる服」という意味です。これにやっと気がついた私は、彼が持ってきた荷物のすべてが、彼の生活の中で意味付けられ、四つのことばで表現されていることに改めて気がつくことになったのです。服は、自分のそばに今はいないくお母さんと自分をつないでいる大切なもの>だったので。それがなくなることは、お母さんがいなくなることだったので。彼のそんな気持ちに気がついたとき、ボロボロになっても汚くなくても、それが彼にとってかけがえのないものであれば、彼がしているのと同じように大事にしようという気持ちを周りの私たちが強く持ってかかわることになったのです。ですから、汚い服があっても彼に無断では洗濯をしないようにしましたし、施設のランドリー部ではなく彼に見えるように施設の洗濯機で洗うようにもしました。半年後には、ダンスの中の彼の汚い服を見つけても「かーやんが今度洗ってくれるよね」と素直に大事にしまえるようになった私に、彼は自分の服を預けてくれるようになったのでした。

Cくんとのかかわりは、その人にとってかけがえのない物や事柄があること、そしてそれぞれに理由や経過があること、これを感じながら相手とつきあうことの楽しさを味わうとともに、支援のあり方を教えられたのでした。

ところで、Cくんの無断外出はそれから2年ほど続きました。職員の隙を見てはバス停に走ります。バスに乗れば家に帰れると思うのでしよう。しかし、身体が重い彼はいつも途中で職員に追いつかれてしまいます。すると、今度は座り込みます。ある時、座り込んだと聞かされていつものように迎えに行きました。彼と同じように道端に座って彼が動き出すのを1時間ほど待っていました。私は施設にやりかけた仕事を残してきたこともあってイライラしていたのでしよう。自分がこうやって座っていることがいいのかどうか、迷いもありました。うつむ



いていた私の顔をニーツという笑顔で彼が覗き込みました。私も思わずニーツと笑顔で返しました。「これでいいんだ」。そのとき、仕事にこだわっていた自分の心がフッと軽くなるのを感じました。彼は私の心を見透かしていたのでしょうか。そして私のことを心配したのでしょうか。それから二人はニコニコしながら

ら手をつないで夕暮れの道を施設へと帰りました。「一本取られました」。そのときの彼はまるで禅寺のお師家さんのようでした。

#### <第4話 野良猫を捨てに行く

##### —葛藤は葛藤のままに—

今にも雨が降りそうな日でした。私は、Dくんを車に乗せて、峠を越え田んぼの広がる田舎道を走っていました。人家がまばらにある畑の草むらに車をとめて、籠に入った猫をDくんは道端にそっと降ろしました。籠から出たその猫は一旦、緊張してあたりを見回すとそろそろと草むらに近寄り、今度は私たちのほうをじっと見えています。二人は、施設から車で1時間かけてその猫を捨てに来たのでした。

どうしてそんなことになったのか、それをこれからお話します。実は、知的障害者更生施設で暮らす彼は一匹のオス猫を飼っていました。とても頭のいい猫でしたから施設に迷惑をかけるようなことはほとんどしませんでした。しかし、時おり野良猫がやってきては施設の残飯をあさったりすることがあり、その疑いをよく飼い猫にかけられました。飼い主としては自分の猫があらぬ疑いをかけられることに腹も立つけど、疑われないようにもしなければならぬ、というのが彼の考えでした。相談された私は、野良猫を捕まえないければならぬはめになり、苦心して捕まえたのです。ところが保健所では引き取ってくれないことが分かって、結局、峠を越えてここに捨てに来たのです。

Dくんは、食欲のコントロールができません。それは、彼の我慢が足りないわけではなく、もともと持って生まれたものなのです。小さい頃から、それを周囲になかなか分かってもらえないまま生きてきました。しかも、小さい頃に別れ別れになっている彼の両親は未だに行方不明です。「迷惑をかけて」というたくさんのことばの中で彼はひとりで生きてきたのでしょう。ここでもまた、自分の飼い猫が「迷惑をかけて」と言われることには敏感に反応せざるを得な

かったのだと私には思えたのです。

猫を捨てに行く彼は沈んでいました。それが飼い猫ではなく、野良猫であることが問題なのではなく、「捨てる」ということが重いのだと感じました。捕まえない方がよかったのだろうか。捕まえてしまうとその野良猫を何とかしないといけなくなります。そのことはまた、彼を苦しめるのです。<傷つけられたくない思いと傷つけない思いの間で揺れ動く>彼に、何もできないでいる自分がいました。彼が両親から受けた傷と彼が他人に与えた傷を、そこに重ねてしまう自分を私は止めることができませんでした。Dくんのその葛藤を肩代わりできるはずもなく、慰めることも励ますこともできずに、そこにいることしかできません。そして、その葛藤の行先を見届けることしかできませんでした。

そばにいることしかできないなら、そのできることを今はしよう、というのが当時の私の結論でした。相手の中で起こっている葛藤をびんびん感じながら、それでもそばに居よう。彼が解決するしか仕方がないことなのですが、そばに居続ければいつか役に立てるかも知れない、いや役に立てなくてもいいからそばにいたいという気持ちが湧いていたのです。役に立たなくてもそばにいること、それは支援の基本のひとつとして、今でも大切だと考えています。

二人をじっと見ている野良猫を置き去りにして帰る車の中では、Dくんはまだ不安げな表情でした。今日は何を食べるのだろうか。考えても考えても止まないことが施設に着くまで続いていたようです。帰ってきた二人を見つけて、彼の飼い猫が施設の花壇から跳んできました。鳴いて甘えてDくんに擦り寄っている猫の頭を彼は静かに無言でなぞっていました。



## 「児童を対象とした日中活動の場」紹介 パート3

前号までに海部津島圏域・尾張中部圏域の方が利用できる児童デイサービス、日中一時支援事業の事業所を紹介してきました。平成18年3月にオープンした事業所があると情報を頂きましたので、紹介したいと思います。今後も新しい情報がありましたら、紹介していきたいと考えております。

### ◆◆◆児童デイサービス・日中一時支援事業（海部津島圏域ほか）◆◆◆

やよいの風 Fuu	地域生活支援事業（日中一時支援事業） 送迎あり	
〒498-0026	利用日	時間
弥富市綱浦町西前新田136-1	月～土曜日	10:00～18:00
リバブルヤトミ1F	日曜日・祝日	13:00～17:00
電話 0567-65-3009	利用が可能な地域	弥富市、愛西市、美和町、甚目寺町、大治町 木曾岬町、桑名市
FAX 0567-65-3009		
E-mail info@syujinko.com	利用料金（海部圏域）	日中4時間以内 4,000円（利用者負担 400円） 日中4時間以上 5,000円（利用者負担 500円）
対象： 幼児・小学生 （長期休暇：中・高校生も可）	時間外の利用 送迎	1時間につき 630円（利用者負担63円） 片道につき 540円（利用者負担54円）
* 居宅介護（ホームヘルプ）・移動支援も実施しています。		

\* 時間外のご利用、私的契約のサービス等、詳しくは事業所にお問い合わせください。

## 入所部門

### ★★★重症心身障害児・者棟 たんぽぽ西棟★★★



たんぽぽ西棟のお誕生日会の様子です。ボランティアさんからコーラスのプレゼントをしてもらいました♪

利用者さんは、ボランティアさんの歌声や演奏にうっとり。生の歌声に聞き入ったり、一緒に歌ってみたり。そして、お誕生日といえば、やっぱりケーキ・・・自分の好きなフルーツをデコレーションしてみんなでお祝いしました。

（指導員 加藤）

### 読書コーナー 「おじさんのかさ」



佐野洋子作・絵 講談社

あるおじさんが、とつてもりっぱなかさをもっていました。そのおじさんは、どこへ行くにもそのかさを持って出かけました。でも、なかなかそのかさを使いませんでした。ある時、とうとうおじさんはかさをひらきました。すると、不思議なことが起こりました。さて、なにが起きたのでしょうか…？

雨の日は、外に出るのがおっくうになりがちですね。みなさんは大好きな雨の日グッズがありますか？かさやかっぱなど、ステキな雨の日グッズを探したくなる1冊です。

（指導員 加藤）



# 親の会の紹介 ③

☆海部・津島地区

「あかぐみさん」

訪問記

今回は、津島中央児童館（津島市民病院そば）の2階遊戯室で毎週金曜日活動している『あかぐみさん』の取材をさせていただきました。就学前のダウン症の子どもを中心にした自主療育グループです。当日はOBの方も参加され、とても賑やかな雰囲気でした。

ダウン症の息子さんを育てていた本多さんという方の提案で横沢先生と服部先生が療育を引き受ける形で、平成5年に2組の親子からはじまりました。今は、しょうがいの有無に関係なく就学前の子と親御さんの憩いの場となっています。お母さんだけでふらっと遊びに来たり、兄弟や児童館に遊びに来ていた親子が一緒に参加したりしています。

遊戯室は、10時～15時まで使用でき、一日の流れは準備、自由遊び、療育、おやつ、療育、昼食、自由遊び、片付けです。自由遊びの時間に子どもをみんなで見守りながらお母さんたちは自由に情報交換、相談などしています。療育は、次から次へと工夫された体操や手作りのカラフルな遊びアイテムが登場し、びっくりしました！関心の示し方やペースは子どもによってバラバラですが毎回同じ流れなので自分の番になるとどの子もはりきって参加し、中にはバッチリ覚えている子もいました。それぞれの活動にはねらいがあるように感じましたが、先生は「訓練ではないので楽しんでもらえれば」とお話されていました。子どもがグズグズしてしまった時やトイレなど途中の出入りが気兼ねなく自由に行けることや昼食のお弁当をコンビニで買ってきてもオッケーなことなど、気軽な雰囲気がお母さんたちにとってとてもうれしいことではないかと感じました。またおやつや食事、それぞれの場面で横沢先生からさりげなく参考になるワンポイントアドバイスがありました。



.....

～現役のお母さんに聞いてみました！～

Q、あかぐみさんへの参加のきっかけはなんですか？

★「参加のきっかけは保健師さんからの紹介。でもはじめは来たくなかった。ひとりで行くのが嫌で保健師さんをお願いしてついて来てもらって・・・そしたら同じダウン症の子どもとお母さんがみえて、気さくに優しく話しかけてくれて嬉しかった。今は楽しみに来ています」

背中を押してくれた人、笑顔で受け入れてくれた人、ダウン症の子育ての先輩、気軽になんでも相談できる先生との出会い・・・お母さんにとって大きな出会い

だったかもしれません。



～OBのお母さんに聞いてみました！～

Q、あかぐみさんはどんな存在ですか？

◆「あかぐみさんには本当に助けられました。4ヶ月のときから参加して、何も分からなかったときにここでいろいろ教えてもらいました。先生にも本当にお世話になって・・・今は、保育園に通っているので今日は久しぶりにきました」

◇「ダウン症と聞いて、まず親の会と思った！家族にインターネットなどでとにかくいろいろ調べてもらって、その中であかぐみさんの存在を知りました。近くなのでとりあえず来てみました・・・」

その当時のあかぐみさんは、ダウン症の子が多く現在とは雰囲気が違ったそうですがOBのお母さんたちの会話に耳を傾けていると学校や保育園の事、家での出来事、外出先での出来事などいろいろなことを話していて、その途中途中で子どもの様子を見て「〇〇ができるようになったね」「やっぱりこれは苦手だね」「こうした方がいいんじゃない」「髪型かえたね」とどの子のこともあたたかく見守っている印象を受けました。センターに戻り、あかぐみさんの案内を読んでいると「ひとりで悩んでいないでみんなで子育てしませんか？」とあり・・・なるほど！！

不安な気持ちだったときに頼りになった先生やママ友たちは、卒業してもいつまでも大切な場所、大切な存在になっていくのだと感じました。

『海部郡・津島市でのダウン症児の育て方 ひとりでなやまないで』という冊子の中で横沢さんは、ご自分のことを「小屋の番人」と書いています。道に迷ったら、小屋で休めばいいし、身も心も休まったら次の山を目指して旅にでればいいし、戻ってくるのもよし。小屋はいつでも「ここにある」存在であればよいと記しています。言葉では、「来るもの拒まず、去るもの追わず」と表現されていましたがお母さんたちにとってはこの柔軟なスタイルが心地よいのではないかと感じました。子どもにとって身近な児童館という場所で、保育園や療育の場とはひと味違う役割を担う「ありそうでなかなかない存在」のあかぐみさん。

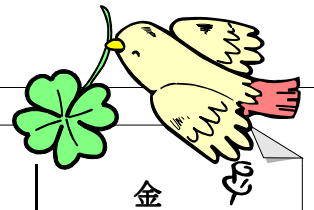
冬には、OBさんもたくさん参加する年に1回の大きなイベント、『クリスマス会』があるそうです。一度のぞいてみませんか？

坂井 恵





## 外来診療のご案内



	月	火	水	木	金
午前 9:00 ~	リハ科(岡川)	皮膚科(杉浦)	リハ科(岡川)	小児科(鈴木) <第1・3>	小児科(安井)
	小児科(麻生)	小児科(安井) (小児発達外来)	小児科(麻生)	小児科(生田) <第2・4>	整形外科(栗田)
12:00	児童精神科 (長谷川) 10:00~	児童精神科(野邑) <第1・3・5>	小児科(安井) (小児発達外来) 9:00~11:00	整形外科(栗田)	児童精神科 (長谷川) 10:00~
	歯科(平岡)	児童精神科(小石)		児童精神科(石井) <第2・4>	
午後 13:30 ~	児童精神科 (長谷川)	小児科・染色体外来 (山中) <第2・4>	リハ科(岡川) 14:00~	児童精神科(石井) <第2・4>	眼科(高井) 14:00~
	歯科(伊藤、平岡)	児童精神科(野邑)	泌尿器科(斎藤) <原則として第2・4>	耳鼻科(別府)	小児外科 (小児外科医) <第3>
16:00	耳鼻科(別府)	児童精神科(小石)	小児科(安井) (小児発達外来)	歯科(河合) <第4>	児童精神科 (長谷川)
	外来新患カンファレンス 14:00~				

○平成19年10月現在の外来診療です。  
 ○受診を希望される方は、電話で予約してください。

### 外来療育相談予定表 (9~11月)

	伊藤相談員		大橋相談員	
	午前	午後	午前	午後
9月6日(木)	○	○	9月3日(月)	○
9月21日(金)	○	○	9月10日(月)	○
9月26日(水)	○	○	10月15日(月)	○
10月4日(木)	○	○	10月22日(月)	○
10月12日(金)	○	○	10月29日(月)	○
10月19日(金)	○	○	11月5日(月)	○
10月24日(水)	○	○	11月12日(月)	○
11月1日(木)	○	○	11月19日(月)	○
11月9日(金)	○	○	11月26日(月)	○
11月30日(金)	○	○		



担当 伊藤相談員

地区 津島市、弥富市、海部郡(七宝町、甚目寺町、飛島村)、北名古屋市  
 その他の市町村(名古屋市以外)

担当 大橋相談員

地区 愛西市、海部郡(美和町、大治町、蟹江町)、清須市、西春日井郡(豊山町、春日町)、名古屋市

ホームページも  
 ご覧ください

<http://www009.upp>